

DE&I (ダイバーシティ・エクイティ・&インクルージョン) とは・・・?

【Q DE&Iとは・・・?】

A DE&Iは「Diversity・ダイバーシティ (多様性)」「Equity・エクイティ (公平性)」「Inclusion・インクルージョン (受容性/包含性)」の頭文字を組み合わせた概念です。それぞれ具体的には以下のような意味を持ちます。

- Diversity: 属性や価値観、能力の多様性
- Equity : 不均衡の是正
- Inclusion : 多様な価値観の受容

DE&Iとは、多様性を受け入れ、それぞれに公平な機会を与えることで、一人ひとりが最大限に能力を発揮できる状態を目指す考え方だと言えます。

【Q なぜDE&Iが必要なのか?】

A 多様な人が働く組織の中では、それぞれの人に合った対応をすることで、それぞれの人が生き生きと働いて成果を出し続けるための考え方が必要です。

多様な働き方は、さまざまなライフイベントにおいて、それぞれの人に必要になってくることだと考えられます。日本の将来推計をみると、2070年には9000万人以下となり、人口における65歳以下の割合(高齢化率)は現在の約3割から4割へと上昇することが予想されます。

今後人手が足りなくなる中で、時間や場所の制約がありながらも働く従業員が活躍できるような職場にする必要があります。

働きやすく、働きがいのある職場には人が集まります。あらゆる人が効率的な働き方を模索し、多様な働き方を風土にできる職場が残っていくと考えられます。

【 DE&Iに取り組む際のポイントは・・・ 】

- ① 経営層が方針を発信する
 - ② 職場環境を整備する
 - ③ 長期的に取り組む
 - ④ アンコンシャスバイアスを取り除くなどがあげられます。とくに、アンコンシャスバイアスを取り除くことは重要なポイントです。
- 多様な考え方を理解し受け入れる力が必要です。そのため、誰にでもアンコンシャスバイアスがあることに気づき、自分の言動や思考をいろいろな角度から振り返ることが求められます。アンコンシャスバイアス自体を消し去ることは難しい面があったとしても、自身の言動や無意識の思考が、立場の異なる誰かの可能性を狭めることになっていないかと立ち止まり考えることは、組織で働く際に役立つでしょう。

【Q 職場に影響を及ぼす

アンコンシャスバイアスとは・・・?】

A アンコンシャスバイアスとは、「無意識の偏見・思い込み」と訳され、考え方や感じ方のクセととらえられています。たくさんあるバイアスの中でも、職場に影響を与えやすいと思われるバイアスを4つピックアップします。

【 正常性バイアス 】

危機的、通常と違う異常事態が起こっても自分には影響がない、関係ないという思いを優先させるバイアス。この傾向が強いと客観的視点が欠け、緊急時や危機的状況への対応が遅れます。

【 集団同調性バイアス 】

集団や個人間で自分の考えを封鎖して、周囲、相手の言動に合わせるバイアスです。部下から意見がでなくなり、イノベーションや多角的視点が損なわれます。

【 ジェンダーバイアス 】

性別役割意識が自分や組織の中で固定しており、「男らしく」「女はこうあるべき」という思いが行動や言動に現れるバイアス。セクハラ・モラハラの原因となり、従業員のストレスや離職に繋がります。

【 慈悲バイアス 】

特定の対象者に対して、過度な配慮をしてしまうというバイアス。個人個人の違いや要望を無視し、個人の成長機会を奪う可能性もはらんでいるため、諦めにつながったり、個人や組織全体の成長意欲を減退させてしまったりします。

生活している地域のバリアフリー

2025年度人権フェスティバル 教育長賞

日田中学校 一年 高崎 千夏

私はバリアフリーをテーマに考えました。なぜこのテーマにしたかというと、私の弟が小学校二年生の時に足を骨折して3か月間、松葉杖や車イスを使う生活をしたことがあります。

弟がケガをするまでは家族の中で手足が不自由な人は誰もいませんでした。でも、家族がケガをして、買い物など一緒に外へ出かけてみると、いろいろな事に気が付きました。一つ目は駐車場についてです。父から入り口付近の駐車場は車イスや足の不自由な人など車の扉を大きく開けないと困る人たちのための場所ということを知っていました。でも買い物に出かけて停めようと思ったときにはすでに車が停まっております。困ったことがあります。私は場所によっては駐車場の数も足りないと感じ、近いからという理由で停めるようなことはしたくないなと思いました。

二つ目はトイレについてです。足にギプスをはめていたので、トイレに行くのも和式ではできず、多目的トイレが無いと困ったことです。弟がケガをするまでは特に気が付かなかったのですが、大きなスーパーでもフロア内に複数個所のトイレがあっても二か所しか多目的トイレがないというのです。トイレに行きたいとなった時に多目的トイレが遠くしかないという足が悪く早く動けないのに不便だなと感じました。お店からしてみれば少数のお客さんかも知れませんが、多目的トイレも複数個所に設置してほしいと思います。

三つ目は建物の入り口のスロープです。松葉杖や車イスだと段差がある時は、家族の助けが必要な事が多く、スロープがあれば一人で動けるのです。小学校、体育館、

図書館や役場など公共の施設はスロープが設置されていることにも気が付きました。階段と比べるスロープは場所をとってしまいますが、段差があるような所は積極的に設置してほしいと思います。

四つ目は車イスについてです。今回は弟が骨折で足が不自由になったので、普段は松葉杖での移動でした。でも、買い物に行ったときなどはお店にある貸出用の車イスを借りることが多くありました。私は車イスを押すのが初めてだったので、車イスを押す人も通路の幅、段差やすれ違う人などに気を付ける必要があることを知りませんでした。でも、貸出用の車イスがあることで弟と一緒に買い物にできたときでも困ることなくお店を回ることができたのでいろいろな場所に貸出用の車イスがあると便利だなと思いました。

今回はケガをしたのが弟で家族なので、私が優しくするのは当然ですが、買い物に出ていると、扉をあけてくれたり、エレベーターの順番を譲ってくれたり知らない人も優しくして助けてくれました。身近な人がケガをして不自由なことで私たちが生活している地域はどんなバリアフリーがあるのか、ということに気が付くことができました。でも一番のバリアフリーは人が人に優しくする、家族に接するようにつけてあげるとい事が大切ではないでしょうか。弟も学校で友達や先生に教室までの移動や、給食の配膳などを手伝ってもらい、うれしかったように楽しく学校に行くことができました。今後は困っている人がいたらみんなが弟にしてくれたように優しく手助けをしていきたいと思います。



人権イメージキャラクター 人KENまもる君
人権イメージキャラクター 人KENあゆみちゃん